

みんなで育てる「たいしの子」vol.7

幼小中一貫教育だより

令和5年度の町立磯長小学校の取り組み

スポーツテストを通して、一人ひとりにあった非認知能力を身につける！

5月9日(火)にスポーツテスト8種目の内の4種目を行いました。スポーツテストは例年5、6年生が行っていましたが、今年度は大阪府が実施するICTを活用した「めっちゃMORIMORI スポーツテスト」の取り組みの一環で3、4年生もスポーツテストを行いました。3、4、5年生には、初めて行うスポーツテストに向けて、4月の下旬から動画を見て、どんな種目



があるのかなど、それぞれの種目のコツを予習して挑みました。

当日は午前中に3、4年生が行い、午後からは5、6年生が行いました。ゴールデンウィーク明けのとても天気の良い日に行うことができました。子どもたちはそれぞれ自分の記録を伸ばそうと、懸命に取り組んでくれました。残り4種目については、学級の体育の時間に行っています。

町立磯長小学校ではこのスポーツテストが終わってからも、体育委員会が主催のミニスポーツテストとして、昼休みに学級毎に反復横跳びや握力測定に挑戦しています。このミニスポーツテストには1年生から全学級が参加しています。3年生以上の子どもたちは、前回より、記録を伸ばすことができるように粘り強く挑んでいます。低学年の子どもたちにとっては、いろいろな動きを経験する機会となっています。子どもたちは自分と向き合いながらも、クラスの仲間と協力し一生懸命に取り組みました。

このように低学年は初めてのことに挑戦すること、中学年は一生懸命に粘り強く取り組むこと、高学年は自分の記録と向き合い目標を達成することを意識することで、自分の力を出し切り頑張る力をつけてほしいと願っています。



教えて!とくどめ先生!

「子どもに意識付けする際の大人のポイントとは？」

前号で子どもの非認知能力の伸長を望むのであれば、大人は、子どもに価値を押し付けるのではなく、グッとこらえ粘り強く子どもと関わって意識づけをしていくことが大切であることをお伝えしました。今回は、意識づけというアプローチはどうすればよいのか、一緒に考えていきましょう。ピラミッドの図をご覧ください。

図で示している、ピラミッドの一番下は、一人ひとりの子どもの「気質」や「性格」、「特性」を示しています。これらが大きく変わることは難しいものです。一人ひとりの気質や性格を把握したうえで、うまく付き合っていくことが大切になってきます。一番上は、「行動」です。この行動は、一時的なもので、大人になってからもとても変わりやすいものです。例えば、就職試験の前に、面接の練習で言葉遣いや振る舞いをどうすればいいのかインプットし、それを本番でアウトプットし発揮することは比較的容易です。こういう時にはこうしておけばよいという、ある種決まりきったものであり、汎用性は非常に低いです。

さて、ここで、おすすめするアプローチして頂きたいポイントが真ん中のところである、価値観、自己認識、行動特性という部分になってきます。価値観=大切な考え方、自己認識=今の自分に必要なこと、行動特性=習慣づけられた行動をさします。それらは先ほどの、言葉遣いや立ち振る舞いといった「行動」よりも汎用性が高く、気質・性格よりも変わりやすいという特徴があります。

例えば、怒りっぽい短気な性格である子どもが、「怒りっぽい人ってかっこ悪いな。グッと我慢できる人はかっこいい。」という価値観にふれ、「もっと自分には忍耐力が必要だな。」という自己認識をし、腹が立つことがあっても「グッとこらえる習慣。」が身につく、まさに行動特性として現れてくるというところに働きかけていけばいいということです。

大人が、日常的にこのような働きかけをすることで、子どもたちの意識づけにつながるのです。私たち大人も、子どものころに、周りの大人からのこうした働きかけによって気づきを得ることができ、行動していったのではないのでしょうか？まさに次は、私たちが子どもたちに伝えていく番ですね。

教えて!とくどめ先生のコーナー 次回は、「子どもたちの成長や変容をどのように見とっていくのか。」です。お楽しみに！

◆問合せ 教育総務課 ☎98-5533

非認知能力育成のためのピラミッド

